

史泉

第四十六号

退職記念講義草稿

「スコッチ・アイリッシュ」……………原 弘二郎 (1)

——「屑」のあしあと——

公害の概念に関する歴史的考察……………小田 康徳 (24)

近代都市大阪の河川問題……………三溝 義一 (45)

——戦前・昭和期を中心に——

淀川沿岸近代水利史料〔大阪府下
右岸篇〕(一)……………服部 敬 (63)

史 泉

第四十四号 昭和四十七年三月

古代輸送考(上)……………高橋 隆博

博多宗伝と以心宗伝(上)……………泉 澄一

山片蟠桃と海保青陵の経済思想について……………井上 実

古い手紙と文書あれこれ(6)……………末永 雅雄

紹介 三木與吉郎編『阿波藍譜 精藍事業篇』

古西義麿編『鶴牧藩日記』

史 泉

第四十五号 昭和四十七年九月

長崎来航唐船の経営構造について……………松浦 章
—特に乾隆・嘉慶・道光期を中心に—

古代輸送考(下)……………高橋 隆博

博多宗伝と以心宗伝(下)……………泉 澄一

新出・小堀遠州書状……………小西愛之助

昭和四十六年度史学科卒業論文題目(一部・二部・大学院)

イラン通信……………末尾 至行

あとがき

◇原弘二郎先生は、本年二月二十日をもって古稀の佳寿をお迎えになり、そして三月末日をもって関西大学を停年退職せられることとなった。

先生は、明治三十六年東京に生れ、御尊父勝郎氏は当時、第一高等学校教授（のち京都大学教授）であられた。先生は、京都の小学校を経て、第一高等学校に進み、昭和二年京都大学文学部史学科を卒業され、さらに大学院に入って英国近世史を研究された。大学御卒業とともにまた、大谷大学の嘱託教授を委嘱され、ついで昭和五年松江高等学校に赴任、昭和二十五年島根大学教授となられ、やがて昭和二十八年八月一日、関西大学教授として来任され、今日に至られたのである。本学在職二十年の間、その温厚なお人柄とともに、つねに諄々として正論を説かれ、史学科のため、大学のために果たされた功績は尽大なものであった。

先生の古稀をおよろこびする祝賀会は、大学の行事暦の関係でお誕生日より一か月くり上げて、一月二十日にとりおこなわれた。当日午後一時から千里山学舎L・I教室におい

て「退職記念講演会」を開催。本学柴田實教授の開会の辞、京都大学前川貞次郎教授「フランス革命像の形成」の講演につづいて、先生の「アメリカ独立前におけるスコッチ・アイリッシュ移民」と題する記念講演が行われた。多年の蘊蓄をかたむけて、大西洋をはさむ東西にわたる広汎な歴史の足跡を展開された名講演は、多数の聴衆にまことに深い感銘を与えるものであった。

ついで同日午後五時半から、大阪駅前第一ビルの北京において「古稀祝賀会」を開催。参加者九十余名の盛会であった。席上、印刷成ったばかりの『原弘二郎先生古稀記念 東西文化史論叢』（B5判・五六〇頁）が、先生に献呈された。この論叢は、先生の古稀をおよろこび申し上げるとともに、先生の長年にわたる御功績をたたえる意味で、知友・門下の方々から献呈された学術論文を収録したものである。ついで、原随園京大名誉教授・梅原末治京大名誉教授・村田数之亮阪大名誉教授・猪谷文臣阪大名誉教授をはじめ多数の諸氏のスピーチがあり、和気あいあい裡に閉会した。

なお、原先生は、関西大学名誉教授の称号を贈られることとなっている。また、先生の

後任としては、英国史の権威、富沢豊岸教授が四月から着任されることとなっている。

◇大学院博士課程の開設 本年四月新学年から、大学院文学研究科日本史学専攻に、長らく期待されていた博士課程が開設されることとなった。修士課程と同様に、古代史・中世史・近世史・東洋文化史・歴史地理の五専修から成っている。

◇末尾至行教授は、昨年四月以来、テヘランの「西アジア地域研究センター」に駐在しておられたが、この二月二日に帰国された。また、宇田米夫教授は、三月に約三週間の予定で、ヨーロッパの都市事情視察に赴かれた。

史 泉 第四十六号

五百円（千30円）

昭和四十八年三月三十日發行

大阪府吹田市千里山

編集兼 関西大学史学会

発行者 振替大阪二六〇一六番

代表者 原 弘二郎

印刷所 京都市南区東九条西岩本町八
大宝印刷株式会社

原弘二郎先生
古稀記念 **東西文化史論叢**

昭和四十八年一月二十日刊
B 5 判 五六〇頁 頒価六、〇〇〇円

原弘二郎先生古稀記念論集によせて…………… 広瀬 捨三

原弘二郎先生略年譜…………… 原弘二郎

「スコッチ・アイリッシュ」…………… 原弘二郎
—「厩」のあしあと—

原先生のことども…………… 猪谷 文臣

早期アングロ・サクソン時代の王権と異教の伝統…………… 富沢 靈岸

「パーベンベルガー・フェーデ」に関する一考察…………… 早川 良弥

ミシエル・セルヴェ裁判について…………… 砂原 教男

君主交替の歴史の意味について…………… 植村 雅彦
—エリザベス一世からジェームス二世への場合—

メッテルニヒ政策の一考察―体制の調停者―…………… 広実源太郎

保守反動期におけるドイツ聯邦…………… 秋山 博愛

イワーノフ・ラズムニクの生涯と思想…………… 松原 広志

共産主義の戦争論…………… 川井 修治

地域の発展概念に関する一ノート…………… 青木 伸好
—P. Clavalの説を中心として—

「社会」の地理学的研究の系譜…………… 橋本 征治
—フランスの場合—

「シースターンの風車」探訪記…………… 末尾 至行

壁面古墳における四神図について…………… 網干 善教
—高松塚古墳の壁面に関連して—

高松塚の壁面とその年代…………… 有坂 隆道

飛鳥高松塚壁面の様式史的考察…………… 横田 健一
—芸術精神史への一試論—

江州泊坂寺址大磨崖仏私見…………… 斉藤 孝
—我国奈良時代と統一新羅の石仏—

二年引き上げられた干支紀年法の源流…………… 友田吉之助

延喜式神名帳の一考察…………… 二宮 正彦

日本古代庶民の家族形態と農業経営規模…………… 福尾猛市郎
—主として奈良時代の経済単位について—

琉球の聖観念 セヂとマブイ…………… 上井 久義

上河宗義とその「商人夜話草」…………… 柴田 實
—堵庵研究への序章—

吉野作造と在日朝鮮人学生…………… 松尾 尊允

一九三〇年代における大阪の騒音問題…………… 小山 仁示
—都市公害問題史研究の一視点—

田園都市の理念とニュータウン…………… 宇田 米夫

吹田市山手町三丁目三
関西大学文学部史学科内
発行 **原弘二郎先生古稀記念会**